

インフルエンザA(H5N1)備蓄ワクチンによって誘導される抗体の交叉反応性の評価

参考資料5

ワクチン株培養系	アジュバント	接種法	接種した ワクチン株 (クレード)	中和抗体価40以上の血清の割合(%) (反応に用いたウイルスの分離年)				試験機関
				血清との反応に用いたウイルス*				
				同クレード		異クレード		
				野生株	ワクチン株	野生株	ワクチン株	
** 鶏卵培養ワクチン	水酸化アルミニウム	3週間隔 2回接種	ベトナム株 (1)	43 (2004年)	—***	0 (2005年, 2012年)	20 (2005年) 1 (2011年)	国立感染症研究所
			インドネシア株 (2.1.3.2)	77 (2005年) 21 (2012年)	—***	0 (2005年, 2012年)	32 (2005年) 17 (2011年)	
			チンハイ株 (2.2)	—***	71 (2005年)	17 (2005年)	10 (2005年) 1 (2011年)	
			アンフィ株 (2.3.4)	—***	97 (2005年) 4 (2011年)	8 (2012年)	3 (2005年)	
	水酸化アルミニウム	3回接種 (2回接種後、 3回目を追加接種)	インドネシア株 + ベトナム株	—***	74 (2005年)	—***	76 (2005年)	国立病院機構
			インドネシア株 + チンハイ株	—***	75 (2005年)	—***	63 (2005年)	
細胞培養 ワクチン	AS03	3週間隔 2回接種	インドネシア株 (2.1.3.2)	—***	100 (2005年)	—***	100 (2005年)	製造所 ワクチン

*野生株及びワクチン株ともに検討可能な株のみを使用し、数株のウイルスを用いた場合は、最高値を表記した。

ただし、近年のウイルスも検討した場合は、参考までに値を列記した。

**現在、日本では備蓄ワクチンとして、鶏卵培養ワクチンを備蓄している。

***未試行

◆季節性、プレパンデミックワクチン、パンデミックワクチンの比較

	季節性ワクチン	プレパンデミックワクチン	パンデミックワクチン		
品目	インフルエンザHAワクチン	沈降インフルエンザワクチンH5N1	細胞培養インフルエンザワクチン(H5N1、プロトタイプ)	乳濁細胞培養インフルエンザHAワクチン(H5N1、プロトタイプ)	沈降細胞培養インフルエンザワクチン(H5N1)
製造販売業者	北里、化血研、阪大微研会、デンカ生研	北里、化血研、阪大微研会、デンカ生研	武田薬品	化血研	北里
製造方法	鶏卵培養	鶏卵培養	細胞培養	細胞培養	細胞培養
ワクチン形態	不活化スプリット	不活化全粒子	不活化全粒子	不活化スプリット	不活化全粒子
アジュバント	なし	あり(水酸化アルミニウム)	なし	あり(AS03)	あり(水酸化アルミニウム)
HA含有量	15 μ g/0.5ml	15 μ g/0.5ml	7.5 μ g/0.5ml	3.75 μ g/0.5ml	30 μ g/1ml、60 μ g/1ml
バイアルの規格	1mlバイアル(2回分量を含有) 0.5mlシリンジ(1回分量を含有)	10mlバイアル(18回分量を含有)	1mlバイアル(2回分量を含有) ただし、最小包装単位は2バイアル=4回分	抗原液(2.5ml)とアジュバント(2.5ml)が1包装(抗原液とアジュバントを混合した5mlで10回分量を含有)	9mlバイアル(9回分量を含有)
成人1回あたりの接種量・方法	0.5ml 皮下注	0.5ml 皮下注または筋注	0.5ml 皮下注または筋注	0.5ml 筋注	1ml 筋注
ワクチン包装の写真	/				

(略語) 北里(北里第一三共ワクチン株式会社)、化血研(一般財団法人化学及血清療法研究所)、阪大微研会(一般財団法人阪大微生物病研究会)、デンカ生研(デンカ生研株式会社)、武田薬品(武田薬品工業株式会社)

(平成27年3月31日現在)